



ここにいます  
「がん電話情報センター」  
あなたの知るを助けます

ancer

(全国一律の電話料金でご利用いただけます。  
PHS、一部のIP電話からはご利用いただけません。)

おーこここにじょうほう  
**0570-055224**  
受付時間：平日 12:00~17:00  
(土日・祝祭日・年末年始・夏期休業を除く)

「伝説のおばさん」のオススメ 6

# 里山や戦争のこと 周囲と話しつづけよう



Akiko Hashimoto

「竹」が気になり始めて何年になるだろうか。

春においしい筍を提供してくれる、あの竹である。京都の詩仙堂へ行けば、美しい竹林が先ず出迎えてくれる、あの竹。それがいつからか、新幹線から視線を沿線の山辺に注ぐと、大量の竹が里山を侵食している様子が目についたまらなくなった。

栃木県の山あいの町に生まれ、里山で遊んで育った。春にはわらび、秋にはキノコを採りに出向いたものだが、家を出る時には当たり前のように竹かごを持った。台所の流しの横には竹製の茶碗かご、家の周囲には竹で組んだ垣根。しかし今、里山へ入って行く大人も子どももいなくなり、生活用品はプラスチック製ばかりになっている。生活の変化で山が荒れ放題、

わらびもキノコも、そして筍も買って食べるものとなった…。等々の連関は、もう私が今さら言わなくても社会全体で気づいた。

つまり10年ほど前は、竹が気になるのよ、と言っても「え？」と怪訝な顔をされることが多かったが、最近はそれを解決する機運も動きもあるとのことだ。森林も里山も、人にとって大切な水、そして海を清浄に保つための基本財産である、ということも認識され、そのために「喪った状態を何とか元にも戻そう」と努力している人達がいることも、幸いなことに聞こえてきている。

ところが私には、里山へ侵食している竹の一本も始末できない。新幹線でコーヒーを飲みながら、その様子を眺むことぐらいが関の山だ。多くの事で同じだ。イラクで犠牲になっている子どもや母を、一人として救うこともできない。でもやはり周囲と話しつづけよう。社会構成員の1個として。

——竹がはびこっている。気になる。海で、山で、遊んだらゴミは持ち帰ろう。戦争は嫌だ。日本人の1人として、核兵器の無い社会を心から望む。



NPO法人血液情報広場・つばさ理事長、  
がん電話情報センターCTIS相談主任、  
日本骨髄バンク(骨髄移植推進財団)常任理事

橋本 明子